

春風秋霜 11月号

令和5年11月24日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 「フェスタ 子ども会」を実施

島田市には、島田市子ども会連合会という組織があります。各小学校の子ども会の役員の方々が集まって、市内の子どもたちのために楽しい活動を企画し、運営してくださっています。

11月12日（日）に、島田市子ども会連合会主催で「みんなあつまれ！わくわくフェスタ 子ども会」が実施されました。市内から620名以上の家族が参加してくれました。以前は、ドッジボール大会をやっていたのですが、コロナウイルス感染症対策の一環として、規模を縮小して小さなブースをいくつも用意して親子でゲームを楽しんでもらおうという企画に代わりました。昨年度より、ゲームに参加してスタンプを集めると、景品がもらえるという楽しみも用意されました。

チャレンジコーナーとして、8つのゲームが用意され、親子で参加するゲーム、子どもだけが参加できるゲームと、楽しい企画がいっぱいでした。楽しいゲーム内容を紹介します。テレビでよく行われる「ストラックアウト」、ペットボトルをボーリングのピンに見立てて行う「ペットボトルボーリング」、自分で作った紙飛行機がどれだけ遠くに飛ぶかを競う「紙飛行機飛ばし」、スリッパを使って目標に入れる「スリッパ飛ばし」、穴が開いている箱をめがけて新聞紙で作った棒が、穴に入るかどうかを競う「新聞ぼうなげ」、親子でも楽しめる「豆つまみ 皿写し」のゲームなど、楽しいゲームがたくさん用意されていました。「豆つまみ 皿写し」はお箸を使って大豆を素早くつままないといけませんから、なかなかうまくいきません。あっという間に時間が過ぎていきました。また、体験コーナーも用意され、紐の両側に球がついており、それを投げて、鉄棒のようなものに引っ掛けて得点を競う「ラダーゲッター」などの日頃できない競技の体験もできるようになっていました。

休憩時間には、抽選会も開かれました。お菓子セットや図書券なども用意され、当選番号が呼ばれるたびに、にこにこしながら走り寄ってくる子供たちが、とてもかわいかったです。

島田市子ども会連合会では、春に「親子つり大会」を企画し、川根の野守の池にいる外来種の魚（ブルーギルなど）の駆除活動を実施しました。地域の皆さんの協力のもと、親子でつりを楽しんでいました。

楽しい企画を考えてくださっている担当者や各学校代表の方々には、心よりお礼を申し上げます。 <会場の様子>



ただ、現在、市内で2つの学校が島田市子ども会連合会に加盟していません。20年ほど前に脱退してしまったのですが、2校以外の全ての小学校が、子ども会連合会に加盟していますので、子どもたちのために、再度、子ども会連合会に復帰してくださることを期待しています。

2 日本の武道という伝統文化をつなげてくれていました！！

先日、ご招待を受けて、「島田市民剣道大会」に行ってきました。小学生から一般まで70人以上の剣士が参加していました。会場には、島田第二中学校で剣道の指導に携わってくださっている奈須田さんも顧問として参加されていました。私自身は、中学・高校の体育の時間に柔道は学びましたが、剣道は一度もやったことはありません。奈須田先生のところに大学生が挨拶に来ていましたが、その時の様子がとても印象に残りました。きちんと正座をして話を聞いているのです。きっと、中学生のころに先生に指導を受けた若者だろうと思ったのですが、正座をしたまま会話をした後、きちんと両手をついてありがとうございますと、挨拶をしているのがわかりました。武道を学んでいる人は、礼儀もきちんとしていると言われますが、見ていてとても清々しいものを感じました。

開会式の後、居合の演武もありました。一つ一つの動きが洗練されており、気合を感じました。全員で7人の方が、居合の演武を披露したのですが、その時の刀が全て本物であるということを伺いました。重い真剣を使って一振り一振りの後、動きがぴたりと止まっている演舞を見て、日ごろの鍛錬の様子が浮かんできました。

肘かけ椅子

「トキメキが大事!？」

スポーツ振興課長 浅岡秀哉

令和5年4月の人事異動によりスポーツ振興課長となりました浅岡と申します。よろしくお願いたします。スポーツ振興課では、「市民ひとり1スポーツ」を目標に掲げ、スポーツ推進委員のもとニュースポーツ教室を開催しています。ニュースポーツ教室では、トランポウオークやワンバウンドふらば～るバレーボールなどの普及・推進を図っており、参加された皆様からは、好評をいただいていると感じています。まだ、参加できる教室がありますので、「少し運動したいな」「新しいスポーツに挑戦したいな」と思われている方は、スポーツ振興課（36-7219）まで、どうぞ、お問い合わせください。



さて、早いもので11月となりました。年々、月日・年が早く過ぎるように感じるのですが、今年7月1日の静岡新聞で「記憶される月日の長さは、生活年齢に反比例して、年少者にはより長く、年長者では短く感じる」といった法則を紹介していました。また、テレビ番組では「トキメキがなくなったから」という答えで紹介していました。時間の感じ方は、心がどのくらい動いたかが重要とのことで、番組内では、子どもの頃は生活の中で発見が多く、そのたびにトキメキを感じることから時間を長く感じる。一方、大人になると、生活の中でトキメキが少なくなることから時間を短く感じるといった旨の説明をしていました。当時、コロナ禍でイベントなども限られ、季節を十分に感じる間もなく年が過ぎていったなというのが、この放送を見たときの感想です。ただ、今年度、スポーツ振興課に異動となり、新しく体験することばかりだったのですが、月日・年は早く感じられ……。まだ、1か月余りあり恐縮ですが、皆さんは今年をどのように感じていますか。